

平成 29 年度茨城県立笠間高等学校自己評価表

目指す学校像	○創意と活力に満ちた教育活動を通して、生徒一人一人の能力を引き出す学校 ○3年間を見通した体系的キャリア教育の実践により、生徒の進路希望を実現する学校 ○笠間高校生としての誇りをもたせ、地域社会から信頼される学校 ○普通科、美術科及びメディア芸術科が互いに刺激し合い、教育の質を高められる学校				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
【成果】 ・授業時間が確保され、授業の規律は概ね保たれている。 ・進学希望者の100%が進学を決定し、就職希望者の98.4%が就職を決定した。 ・国公立大学4名を含む33名が大学に合格した。そのため、国公立大学合格者が8年連続となった。 ・登校指導や服装頭髪指導の徹底により、服装や頭髪の乱れは改善している。 ・「道の市」「笠高キッズ」「笠高ジュニア」「笠間浪漫」などの地域連携行事や笠間駅周辺の清掃ボランティア活動等に参加する生徒が増えている。 【課題】 ・中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や、特別な支援を必要とする生徒がいる。 ・進学が6割、就職が4割と進学者が増加してきたため、進学指導体制の充実が必要である。 ・問題行動の数は減少しているが、心の問題を抱える生徒が少なからずいる。 ・1年生は夏休み終了まで全員部加入を行っているが、その後の部活動の定着率があまり高くない。	基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取組の充実と、特別な支援を必要とする生徒への支援体制の整備	①アクティブ・ラーニングを中心とした授業形態の工夫・改善を積極的に行うことにより、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	A	B	
		②学習習慣の確立を図るとともに、ICTを活用した授業づくりを推進し、進路実現のための学力を生徒に身に付けさせる。	B		
		③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して、特別な支援を必要とする生徒への学習支援及び適切な対応に努める。	B		
	問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化	④体罰によらないきめ細かな指導と教育相談体制の充実を図る。また、学年間、教員間での統一した生徒指導を行うことにより、非行やいじめの未然防止を始め、SNSトラブルやスマホ利用をめぐる新たな問題や課題にも迅速に対応する。	A	A	
		⑤家庭、地域社会及び関係機関との連携強化を図るとともに、情報共有のもと協力して生徒指導を行う。	A		
	主体的に進路を選択し、その実現のための具体的道筋を考え、行動し、実現しようとする意識と態度の育成	⑥3年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで、望ましい勤労観・職業観、進学や就職に対応できる各種の力の育成を図る。	A	A	
		⑦インターンシップや各種の講話、「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組等を通して、進路選択とその実現のため主体的に行動しようとする意識と態度の育成を図る。	A		
		⑧進学指導の充実を図るとともに、生徒の資格取得を推進し、進学と就職における生徒の選択肢の拡大を図る。	B		
	心の教育の推進と特別活動の充実	⑨奉仕活動、異校種学校との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。	A	B	
		⑩部活動や生徒会活動への主体的、積極的な参加を促し、生徒の活力を引き出すとともに、礼節や規律を重んずる態度を養うことで、豊かな人間性を育む。	B		
	美術科及びメディア芸術科の教育活動の充実	⑪質の高い指導と様々な体験活動を通して、美術や映像メディアに関する技量を伸ばし、美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。	A	A	
		⑫「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組を通して、美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。	A		
		⑬美術科及びメディア芸術科に関する教育活動の積極的な広報活動を行う。	A		
	地域からの期待と信頼に応えるための積極的な教育活動に係る情報の発信	⑭様々なメディアを通して、学習指導や生徒指導における実践と成果及び生徒の課外活動の様子など、本校の教育活動についての情報発信に努める。	A	A	
		⑮特色ある学科を有する笠間高校の未来像を、様々な機会をとらえて地域社会に発信していく。	B		
		⑯創立110周年記念事業(平成30年度)に向けた取組を推進する。	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	授業規律と学ぶ姿勢の確立	・課題の期限内提出や授業ルールの徹底を図る。②	B	B	・学ぶ姿勢の確立のため、課題の期限内提出や授業ルールの更なる徹底を図る。 ・進路実現を視野に入れた指導の充実に向け、漢検など国語関連資格取得の推進を継続していく。
		分かりやすい授業展開及び基礎学力の向上	・T Tにより普通科一年生が高校の授業にスムーズに適応できるよう適切な指導・支援を行う。②	A	A	
			・辞書や便覧、映像等の資料の活用、ワークシートの工夫及びグループ活動を通して、生徒の自主的な学びを促す。①	A		
			・小テストを実施する。②	B		
		進路実現を視野に入れた国語指導の充実	・漢検など国語関連資格の取得を推進する。②⑧	B	B	
	・短歌・俳句・読書感想文などのコンクールへの参加や読書教育を通して表現力を養う。①		A			
	地歴公民	基礎学力の定着	・単元・学習内容に応じて適宜学習内容の精選と指導方法の工夫及び中学校までの学習内容の学び直しを行う。①②	B	B	・指導方法と評価方法の改善に関して、教科内でよりよい方法を検討し、指導と評価の一体化を一層進める。
		指導方法の改善	・作業的・体験的活動といったアクティブ・ラーニングを適宜採り入れ、生徒が能動的かつ活発に取り組む指導方法の展開に資する。①	B	B	
		公民的資質の育成	・主権者教育や金融・租税教育を通じて公民的資質を育成するとともに、社会的に有為な人物としての職業観・勤労観を育む。⑥⑨	A	A	
	数学	基礎学力の養成	・少人数編成授業を活用したきめ細やかな授業を通して、個々の生徒に達成感を与えられる授業を展開する。②	A	B	・評価方法の改善に向けて、教科内でさらに検討し指導と評価の一体化を進める。 ・より効果的な少人数編成授業の実施に向けて工夫と改善に努める。 ・数学検定課外を充実させる。
			・学習習慣の確立を図るため、自主学习ノートを取り入れ、学習状況を把握する。②	B		
			・アクティブ・ラーニングやICT機器を利用した授業を通して、一人一人が主体的に授業に参加できる授業を展開する。①②	B		
		進路実現に向けた指導	・復習や発展的内容を取り入れながら進学課外を行い、進路実現の一助とする。⑧	A	B	
			・数学検定の実施と、それに対応した課外を充実させる。⑧	B		
	理科	自然現象への興味・関心を高める指導法の工夫・改善	・実験や実習など体験的な活動や視聴覚教材の活用などをとおして、自然現象に対する生徒の興味・関心を高める。①②	A	A	・基礎的計算力が不足している生徒が多く、その対策が必要である。 ・評価方法の改善のための方策が必要である。 ・カリキュラム（単位数）の検討が必要である。
		生徒の実態に応じた指導の展開	・基礎的計算力の不足している生徒が多いことから、既習の基本的な内容の確実な定着を図る。①	B	B	
			・発展的な内容を取り入れることで、上級学校への進学を目指す生徒にも対応していく。②⑧	B		
			・教科書準拠の問題集や小テスト等を活用し、また、必要に応じて補習を行うことで、基礎学力の定着に努める。②③	A		
	保健体育	授業内容の充実と工夫・改善	・学習形態の工夫やアクティブ・ラーニング、ICT機器を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を図り、学習で得た知識・技能を実生活においても活用することができる授業を実践する。①②	B	B	・指導と評価の一体化を進めるとともに、生徒の体力向上と実生活への活用を意識した指導を行っていく。 ・安全管理に気を配り、生徒同士でも安全を確保しながら学習活動をしていくことができるよう指導を工夫していく。
			・体力テスト結果の向上を目指し、運動量の確保に努める。①	A		
		授業規律の確立	・学習用具や学習環境を整備するとともに、生徒に単元及び本時の目標を確認させることで、時間を守り、授業に集中して参加する意識と態度を育てる。①⑩	B	B	
		授業時間の確保	・授業交換（保健）の徹底を図り、授業時間の確保に努める。①	A	A	
			・体育実技は教科内填補を確実にし、生徒の安全確保及び怪我の防止に努めるとともに、生徒同士でも主体的に安全を確保できるようにする。①	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	芸術音楽	授業内容の充実と、意欲をもたせる指導の工夫	・表現する喜びを味わえる授業の実践に努めるとともに、適切に発表の場を設定する。②⑩	B	B	・生徒一人一人の能力及び目標の達成状況に応じたきめ細かな指導に、引き続き努めていきたい。
			・言語活動の充実を図り、表現の工夫や感じ取ったことを思考・判断し、表現する力を高める。①②	B		
		指導に生かす評価の工夫	・評価の観点を明確にすることで関心・意欲を高め、目的意識をもたせながら学習に取り組ませる。①	A	B	
			・授業や実技発表での課題や反省を評価カード等に記入させ、指導に生かす。①②	B		
	芸術美術	授業の内容充実と工夫・改善	・美術作品を制作・鑑賞する喜びを十分に味わえる授業を実践する。①②	B	B	・生徒の実態に応じた、充実感を味わえる授業を工夫していく。
			・文化祭や美術棟での展示を行い、美術科・メディア芸術科と互いに作品を鑑賞し合うことで、より充実した制作活動に繋がるように指導する。②⑬	A		
		指導に生かす評価の工夫	・制作における表現を記録、発表させ、お互いに鑑賞することで言語活動の充実を図る。①	A	A	
	英語	基礎学力の定着と応用力の育成	・少人数授業の展開により基礎的知識や基礎的コミュニケーション力を定着させるとともに、課外授業を通して上級学校進学に対応できる学力を付けさせる。①③	B	B	・T Tの授業を充実させ、個々とコミュニケーションをとることで、英語表現ができるよう努める。
			・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、単語演習やワークブックなどの課題を適宜出していく。①	B		
		指導内容の充実と工夫・改善	・個々の生徒の実態に応じた指導と支援に努める。①②③	A	A	
			・生徒全員が主体的に授業に参加できるよう、コミュニケーション活動などの表現活動を積極的に授業に取り入れるとともに、観点別評価方法の工夫・改善を図る。①②	A		
	家庭	生徒の実態に応じた指導法の工夫	・自作課題や外部検定の活用を通し、生徒の主体的取り組みを促す。①②⑧	B	B	・生徒の興味・関心を引き出す教材や指導方法の工夫・改善に努める。
			・指導法の工夫・改善に努めることで、生徒の思考力の伸長を図り、実生活で本当に活用できる力を育てる。①②⑧	B		
			・補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実を図り、興味・関心を高めさせる。①	A		
		実験・実習の充実	・10 分の5 程度の実験実習を取り入れ、T Tの授業を活用したきめ細やかな指導を通して、食物調理技術検定や被服製作技術検定の合格率を高める。①⑧	A	A	
	・エプロン製作や調理実習を通して、創造的に製作する態度や「本当に使える力」を見据えた技術の習得を目指す。①		A			
	情報	情報化社会に対応できる能力と知識を身に付ける	・ネット検索を利用した情報収集や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの基本操作を身に付けさせるとともに、製作物を発表する体験を通して、実践的な活用能力を育成する。①②	A	B	・基礎的技能が不足している生徒が多いため、その対策が課題である。
			・実際に起きた事例を取り入れ、著作権や個人情報の管理など、情報モラルの向上を図る。①②	B		
		資格取得の推奨	・生徒の技能の向上を図るとともに、共に学び合う姿勢を育てるために、ビジネス文書実務検定などの各種検定への参加を推進する。②⑧	A	A	
			商業	授業を分かりやすくするための工夫改善	・生徒の実態や能力に応じ、授業内容や指導方法の工夫・改善を図る。①	
	・ICTを活用し、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。②	A				
	職場環境の変化に対応できる資質と能力の向上	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。②		B	B	
		・各種検定試験に対応した授業内容を取り入れ、資格取得を推進する。⑥⑧		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教 務	学力の向上と特別な支援を必要とする生徒への支援	・生徒の言語活動能力の伸張を目指しアクティブ・ラーニングやＩＣＴ機器を取り入れた授業が行えるよう環境整備に努める。①②③	A	B	・ＩＣＴ機器の充実を図り，主体的で対話的な授業の促進の足掛かりとする。 ・生徒の学習習慣の確立を図るためにも，シラバスと観点別評価等を充実させる。 ・笠間高校の魅力をＨＰ等を通じて広く広報に励む。
		・支援を要する生徒に個別的・組織的対応ができるよう関係者の連携を図る。①②③	B		
		・進路指導と連携し，学習に目的意識をもたせることで学習習慣の確立を図る。①⑥⑧	B		
	魅力ある学校づくりと積極的な情報発信	・ホームページを定期的に更新し，魅力ある学校づくり及び教育活動の情報発信に努める。⑤⑫⑬⑭⑮	A	A	
		・県内全域に広く広報活動を行って美術科・メディア芸術科について周知を図り，受検生の確保に努める。⑫⑬⑭⑮	A		
生徒指導	基本的生活習慣の育成と規範意識の醸成	・教師と生徒の人間的な触れ合いの中で一人一人を十分に理解して信頼関係を築き，生徒が自らを律して学校や社会のきまりを守り，自己の言動や生活態度をより好ましいものに高めようとする力を育む。④	B	B	・カウンセリングのより一層の充実（派遣回数の増加）。 ・携帯電話の学校内での使用に関する指導を強化。 ・自転車置き場の増設。 ・バイク通学生徒にはフルフェイスのヘルメット着用を強くすすめる。
		・保護者，学年内・外，関係機関との連携を密にし，情報共有のもと，統一した組織的かつきめ細かな指導を行う。④⑤	B		
	事故・問題行動の未然防止と教育相談の充実	・学校いじめ防止基本方針に基づき，いじめを正確に認知し，防止等のための取り組みを行う。④⑤	A	A	
		・非行防止，防犯，交通安全，ネット安心安全利用教育等の講演会を実施し，事故・問題行動の未然防止を図る。④⑤	B		
		・教員による生徒面接の積極的な取組と，スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの活用により，教育相談を充実させる。④⑤	A		
進路指導	３年間を見通したキャリア教育の推進	・外部講師や卒業生を積極的に活用し，進路に対する意識を高めるとともに，コミュニケーション能力を育成する。③⑦	B	B	・３年間を見通した目標を立て，育成すべき資質・能力を明確化し，構造的な進路指導体制を確立する。学年ごとに具体的方策を作成し，実施後にフィードバックと改善を行う。
		・職場や上級学校の見学，インターンシップ等の実体験を通して，進路に対して具体的なイメージを持たせる。③⑦	A		
	進路希望の実現	・生徒の進路選択の幅を広げるため，資格取得を推奨するとともに，基礎学力を定着させ，応用力を付けさせるための支援体制を強化する。⑧	B	B	
		・進路指導室や進路ブックの内容を充実させ，進路実現に向けて，生徒が自主的かつ主体的に行動するよう促す。⑥	B		
保健厚生	生徒の健康管理の充実および保健意識の高揚	・担任と連携し未受診者の確認を徹底する。各種検診を通して自身の健康について振り返り健康への意識を高める④⑤	A	A	・防災避難訓練の実施内容について検討し，非常時に適切な行動がとれるようにするとともに，防災意識をより高める。 ・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように引き続き安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。
		・「保健だより」等を通して，生徒の保健意識を高め，疾病，特に感染症の予防に努める。④⑤	A		
	学校環境の美化と整備	・安全点検を実施し安全を確保するとともに，校舎内外の自主的な清掃作業の習慣化に努める⑨	B	B	
	地域と連携した防災教育の推進	・地域と連携した防災訓練を実施し，震災などの非常時に適切な行動がとれるようにする。⑤	B	B	
特別活動	部活動の活性化	・顧問の特性や個性を活かし，複数人体制で部活動の活性化を図る。⑩	A	A	・部活の加入率はアップしたが，継続率が伴わない点の改善。限られた予算の各部への適切な配当。
		・部活動顧問会議などを通して，部活の活性化と円滑な活動，及び適切な予算配分を進める。⑩	B		
	学校行事の生徒の自主的実践的参加	・生徒会を中心に，全校生徒が意識をもって行事の企画・運営ができるようにする。⑨⑩	A	A	
		・生徒の意見を積極的に取り入れ，学校行事の充実と活性化を図ることで，生徒の自主性を育む。⑨⑩	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
特別活動	ホームルーム活動を通し生徒の自己形成を図る	・LHRの年間指導計画を工夫することで、LHR活動の時間を確保し、充実させる。⑨⑩	B	B	・行事の精選とLHR時間の確保。
		・JRC,生徒会を中心としたボランティア活動や、生徒の地域連携行事参加を進め、地域交流を図る。⑨⑩	A		
渉外	P T A活動の活性化	・保護者が意欲的に協働できる環境を整え、P T A行事への参加を呼び掛ける。⑤⑬⑭	A	B	・役員活動の情報公開とワークショップリングを進めていきたい。
	・日程の工夫や内容のさらなる充実を図り、P T A総会出席者の増加を図る。⑤⑬⑭	B			
	P T A活動の広報	・P T A活動を地域に情報発信するため、会報を見直す。⑤⑭	A	A	
図書	読書環境の整備	・除籍作業を適宜行うことで、図書の整理整頓に努める。②	B	A	・「朝の読書」の意義を周知徹底し読書の楽しさを知る時間とする。図書委員の仕事を活発化し、書架や書庫を利用しやすいように整備していく。古い視聴覚教材が多いので、教科の要望を募り、必要な教材を購入するなどする。単なる学習室ではなく、本来の役割に沿った利用を教科に働きかける。
		・図書室の装飾を含め読書環境の整備をし、利用しやすい図書館づくりに努める。②	A		
	図書委員会の活性化	・図書委員に当番の仕事についての的確に伝えることで図書委員としての自覚を促す。⑨⑩	B	B	
		・図書の整理や受け入れ作業などの具体的な仕事を図書委員に与え、主体的な活動を促す。⑨⑩	B		
	視聴覚教材の管理・活用	・視聴覚教材を適正に管理し、授業などでの活用に努める。①②	B	B	
	「朝の読書」の充実	・「朝の読書」の意義と、静寂を保つ大切さを周知徹底していく。①②	B	B	
		・学級文庫を充実させるための入れ替え作業を進めていく。②	B		
事務	財務会計の適正な執行	・各担当部署から予算計画書の提出を受け、内容を精査し、適正かつ計画的な予算執行を行う。	A	A	・諸会費の未納者に対して、口座振替の用紙を同封し、現金の事故防止に努めており、来年度も継続したい。予備監査では、特段の指導事項は指摘されなかったもので、今後も適正な財務会計に努めたい。年度内に、特別棟のトイレの改修や昇降口の天井修繕・自転車置き場の塗装を計画している。一層の教育環境の整備に努めていきたい。
		・財務会計規則等の諸規則に則り、適切な判断により、適正かつ効率的な執行を行う。	B		
	施設設備の適切な維持管理	・各担当部署の要望に基づき、備品の更新等を計画的かつ適正に行い、教育環境の整備に努める。	A	A	
		・安全な教育空間を確保するため、施設設備等の改修・維持管理を行い、適正かつ迅速な対応に努める。	A		
	温室効果ガスの排出抑制と省エネ対策	・電気・ガス・水道量の記録管理を継続し、漏電漏水等の防止に努め、尚且つ省エネルギーの推進を行う。	A	B	
		・グリーン購入法の推進により、環境にやさしい製品の購入に努める。	B		
美術科	基礎的技術力の向上	・生徒の制作環境を確保し、意欲的に制作に取り組めるよう、複数の教員で連携して実技指導を行う。①⑪	A	B	・生徒の技術力向上の為の指導体制の改善を図る。 ・進学指導体制の強化と工夫を図る。 ・校外での展示活動と広報活動の方法を工夫したり、生徒の活動が伝わる取り組みを検討したりしていく。
		・生徒の実態に応じて、指導方法の見直しや工夫・改善に関する研修を行う。①	B		
	美大進学体制の充実	・早い段階から進路へ向けて意識を持つよう指導し、「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」を活用し、広く情報を収集しながら希望進路の実現を目指す。②⑦⑫	A	A	
	体験活動の充実	・美術科行事や課題等の内容を充実させ、生徒が主体的に課題に取り組み美術の諸能力を伸ばすことができる指導を行う。①⑪⑫	A	A	
	教育活動の積極的広報	・質の高い作品制作を推進するとともに、様々なメディアを活用して作品を発信し広報を図る。①⑫⑬	A	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
メディア 芸 術 科	教育活動の充実	・専門の授業をとおして表現力を高めるだけでなく、言語活動を充実させ、映像メディアにおける「伝える力」を身につけさせる。①②⑪⑫	A	A	・進路意識を早期から育成し、小論・実技課外参加を促すことで、大学進学率を向上させる。 ・専門性の高い授業を生かし、部活動の活性化を図る。 ・ホームページによる積極的情報発信を継続し、定員を確保する。 ・教員間の相互研修を図る。
	教育活動の積極的広報	・ホームページにおける情報発信をタイムリーに行うとともに、学科説明会や体験入学、卒業業制作展等をとおして、メディア芸術科の更なる周知を図る。⑬⑭⑮	A	A	
	体験活動の充実	・異校種交流や地域交流活動等を積極的に推進し、映像メディアが学校と地域社会、あるいは世界とをつなげる力となり得ることを学ぶ。⑤⑨⑭⑮	A	A	
	進路の実現	・日頃の特色ある学習活動の成果を生かし、進路の実現を図る。②⑪⑫	B	B	
1 学年	基礎学力の向上	・毎日の授業をしっかりと受けさせ、学習意欲を引き出し、基礎学力の定着と向上に努める。①②	B	B	・進路に関する意識を高め、進んで学習目標と学習計画を立てて、自主的に学習に取り組むように指導する。 ・学力の引き上げの必要な生徒の対応とともに、優秀な生徒に対する学力向上のための方策を立てる。
		・家庭学習の習慣をつける。②	A		
	基本的生活習慣の確立	・服装頭髪指導の徹底を図り、笠間高校生としての誇りと自覚を促す。④⑤	A	B	
		・保護者との連携を図り、欠席・遅刻・早退を習慣化させない指導に努める。④⑤	B		
	個に応じた指導の展開	・日々の学校生活や授業において、特別な支援を必要とする生徒を早期に発見し、教師間での情報共有と保護者との連携を図りながら適切な指導に努める。③	A	A	
2 学年	基本的生活習慣の確立	・服装頭髪指導の徹底を図り、笠間高校生としての誇りと自覚を促す。④⑤	A	A	・成績上位層の学習指導の充実を図る。 ・具体的な進路目標を持ち、生徒自ら学習に取り組む環境作りや指導方策を立てる。 ・思考力・判断力・表現力を伸ばし、社会人として必要な積極的行動を促す指導を行う。
		・保護者との連携を図り、欠席・遅刻・早退を習慣化させない指導に努める。⑤	B		
		・生活指導や修学旅行等をとおして、適切なコミュニケーション能力や社会人として必要なルールを身につけ、常識ある態度と心の育成を目指す。⑨⑩	A		
	進路に応じた基礎学力の確立	・生活の指導や授業において、アクティブ・ラーニングの手法や ICT を利用するなど工夫し、生徒が深く理解し、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるよう指導に努める。①②	B	B	
	進路指導の充実	・各種進路行事、課外、資格取得、インターンシップなどをとおして、進路に目的をもち、努力を重ねることで充実感や向上心をもてることができるよう、進路意識の育成を目指す。⑥⑦⑧	B	B	
3 学年	基本的生活習慣の確立	・笠間高校生として、また、最上級生としての誇りと自覚を促す。⑨⑩	B	B	・希望する進路実現のため、さらに自覚を高める方策が必要である。 ・基礎学力向上のための方策が必要である。
		・卒業後の進路を見据えて、基本的生活習慣を身につけさせることで規則正しい生活の大切さを認識させ、社会人としての基礎力を身に付けさせる。⑥⑦⑧	B		
	進路に応じた学力の向上	・毎日の授業を基本とし、かつ、各生徒の進路実現に求められる学習については個に応じて指導することで、希望進路を実現させるための学力を身に付けさせる。①②③⑥⑧	B	B	
	進路指導の充実	・進路ガイダンスなどの各種進路行事や課外授業等を通して、「消去法の進路選択」ではなく「希望する進路の実現」への流れに向け、進路意識を高めさせる。⑥⑦⑧	A	A	

※ 評価規準：A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった